

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	初生子どもの家 第2てんし			
○保護者評価実施期間	2025年9月5日 ～ 2025年9月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2025年 9月11日 ～ 2025年 9月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名(てんし・第2てんし合同)	(回答者数)	10名(てんし・第2てんし合同)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者のニーズに合わせた支援計画。集団生活でのルールやマナー、礼儀といった基本的な態度を指導することで、社会に適應する力を養っています。	子どもたちの送迎中の会話、お迎え時の会話に耳を傾け、現状を聞き出し、子どもたち一人ひとりに合わせたプログラム作りをしながらシュミレーションをしている。	更なる向上を目指した活動。 一人一人を成長させていくために現在の様子を掘り出し、どの部分を成長させたいか将来を見据えながら細かな目標設定をしている。
2	子どもの保護者からの相談や申し入れにつての対応しきちゃんと向きう。コミュニケーションを取る中で、子供に対しての困り度や、どのようにしていけばいいの相談を受けることで、家庭と事業所で支援が統一できる。	保護者からの声に耳を傾ける。保護者のお迎えの際にお家での様子の確認。指導が保護者の理解を得られるよう、家庭での様子や困っていることなど密なコミュニケーションを取ることを心がけている。	解決方法のノウハウ。 職員のスキルアップのための研修（対応の仕方や知識について）
3	活動が固定化されないように工夫している。子どもたちに飽きが来ないようにしている。	日々のミーティングの中で職員の指導統一をはかる。子どもたちの現状把握。活動での目的の一致。指導内容の確認。	活動内容の充実。 新しいものを取り入れる知識や情報収集。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の繋がりや支援やサービスの提供。家庭への支援。	利用者が広域になり、集まる機会を設けるのが難しいため、父母会となると負担が大きい。家庭での支援に関しては、各家庭の教育方針や考え方を尊重しながら、どこまで踏み込んで支援を行うべきかという点について、検討していくべき課題。	アンケート、意見交換の回数を増やし、集計、掲示する。集会をせずとも現状の把握ができるように伝えていく。保護者向け交流会や相談会の可能性を模索している。家庭ごとのニーズや関心に合わせ、最適な情報提供や支援のあり方を検討している。
2	建物の構造、耐震性	築年数が経っている。 老朽化が進んでいる。	補強工事。リフォームなど。修繕工事。 定期的な点検。
3	外部との交流。（保育園、こども園、地域の方との交流。	下校時間のバラツキなどにより、平日は厳しいため、計画が立てにくい。	長期休みを利用し、外部との交流を試みる。 イベント行事に招待する。 近くの公共施設を利用する機会を増やし、他の利用者との接点を作る。